



継承人 01

大津町地蔵祭実行委員会
まつなが ゆきひさ
松永幸久 委員長
大津町商工会会長

地蔵祭

再び、原点へ

今回、8年ぶりに祭りの会場が町の中心部に戻ってきました。熊本地震で大津町役場が被災し、オークスプラザ前のグラウンドが役場新庁舎の建設に伴い、大津中央公園で開催していました。ところが、新型コロナウイルスの影響を受けて3年間も中止になりましたが、ついに今年には祭りを盛大に開催することができました。そして、会場が8年前の場所に戻ってくることができ、うれしく思います。

伝統を守り続ける

大津地蔵祭は役場周辺を歩行者天国にし、六地藏山車やステージ企画、総踊り、梅の造花、花火などが見どころの祭りです。祭りの形は8年前から変えてい

原点回帰。歴史を守り続けたい。

子どもたちが六地藏山車を彩る

障がい児入所施設である「若草児童学園」の子どもたちと町商工会青年部の約20人が、旧町商工会館でちょうちんにイラストを描いたり、シールを貼ったりして、「六地藏山車」に飾り付けを行いました。



地蔵祭の裏側

ません。昔から祭りに参加している人たちに地蔵祭の思い出をいつまでも懐かしんでもらいたいと思っています。そして、子どもたちに夢を与え、思い出を作りたいと強く願っています。子どもたちが大きくなって祭りのことを思い出してもらえように、祭りの日は「8月23日・24日」にしています。子どもたちが大人になって故郷を思い出し、祭りの日に帰ってくる

もっと盛り上げる

町民の皆さんの喜びが私たちの喜びです。これまでの祭りの形を残しつつ、改善できるところは見直し、来年は今年を超えるような祭りを開催できるよう、大津町地蔵祭実行委員会、そして町民の皆さんと一丸となって準備を進めていきたいと思っています。



4年ぶり / 大津地蔵祭に笑顔が戻る

大津町の夏の風物詩である「大津地蔵祭」が4年ぶりに開催。8月23日・24日に開催され、約3万人のお客さんが会場を訪れました。熊本地震で旧大津町役場の駐車場が会場として使用できなくなり、大津中央公園で開催されてきました。そして、ついに今年、8年ぶりに祭りのメイン会場が商店街に近い町の中心部に戻ってきました。復興した場所で大津地蔵祭の新たな歴史の幕が上がります。



住民から愛され続けてきた大津地蔵祭は170年以上も前から行われている大津町の三大祭りの一つ。地域の皆さんが伝統を守ってきた祭り。伝統を守り続けることは簡単なことではありません。今回は大津地蔵祭を通じて、大津町の伝統を守り続けてきた“継承人”に伝統を守り続ける思いを聞いてみました。

大津地蔵祭の由来

大津の全町内に地蔵尊を安置してお祭りを催し、町内競って造り物などに意匠をこらすようになり、近郷の人々も町に集い、商売も賑わうようになって、県内でも山鹿灯ろう祭か、大津の地蔵祭かといわれるようになったのは、明治の初年頃からでした。しかし、大津地蔵祭は明治時代に始まったものではなく、維新前からの行事であったのです。

▼鶴口地蔵の写真



江戸時代この地一帯は空き地で、藩のおふれや諸法度を示す七枚建の「高札場」(命令などを人目をひく所に札を掲げておく場所)ですが、年1回軽犯罪人の「さらし場」でもありました。

た。別名、「監物さんの矢開き場」とも呼ばれました。当時、弥護山細川藩の禁猟山林で代々米田家の支配に属し、米田氏は藩命により数年越しに鹿狩を行い、その獲物をここに集め、鹿狩に加った将士をならべて、厳重なる矢開式を行ったのです。そのとき処理した獲物の冥福を祈るため小さな祠を祀り、さらに天明年間(1781年)飢きんや悪疫、あるいは井出で溺死するなど多くの子どもが死亡したので、その霊を祀るため、この祠堂に地蔵を置きました。

寿賀廻舎日記に嘉永三年(1850年)8月24日頃に「鶴口地蔵・松古閑地蔵生花、造花色々造り物、存外賑い申候」とあり、この記事から推測して嘉永三年以前から地蔵祭や、造り物、造花などは、大津の名物となっていたと考えられます。

町内各地で地蔵を祀るようになり、梅の造花や造り物が飾られ、縁日が盛り上がる、今日の大津地蔵祭の原型ができてきました。

【参考資料】

「大津歴史こぼれ話」「大津史」「復刻・増補寿賀廻舎日記抄」